

厚労省試算 結論ありき

保険証廃止でコスト減?

秋に狙う健康保険証の廃止が経費削減につながるとの試算結果を発表しています。中身を見ると、保険証廃止をさらに押しつけるため、無理にでも「コスト減」と結論付けようとしている疑惑が透けて見えます。

示してお申付け申中であります。行経費減に対する
保険証利用を「カード」「マイカード」の未取得
交換する「交換書」でマイナスで使えない医療
診療でありますから受け付けておらず、この点
報のお知りせりふたな経費をかさんだ場合に
医療保険全体108億円が、どうしてこの試験
うか。

試用込申時緒すと規しとマヌケを名をせ在せ。しか削減でき
保根拠はど

「お知らせ」。被用者保険にマイナ保険として「定期料金」にて試算して。患者が受診。一トフォンで「マイサイン」と「マイアル」の賃格情報を見せれば、「おみどり紙」を想定算とみられます。

機関で保険医療を受けない人が牛乳の販賣者に加入する危険性もあり、コスト減のため、加入者の権利が制限されるのは許されません。

してあります。申請手続きを能性もあるの体などの受け加は試算に反ません。加入な手間をかけ問題もあります。

の品質を貢献して結果を示さず、いつ翻訳しましました。「今後はマイナ保険証を持つていない方に對し資格確認書をすべて発行する。従来の保険証に比べ、発行コストあるいは保険者の事務負担は減少する。これは当然のことだ」

実際は圓滑な話のうえ、医療現場はいまも、マイナ保険証では保険資格が確認できなければ相次ぐトラブルの対応に追われています。現行保険証の存続こそが求められています。

たつたの10回

作に不慣れな人は何年も持ち歩くことになりボロボロになりかねません。

確認書については、被用者保険の交付頻度を一律に「5年に1度」に設定。より短期間に

も」で半数としたと説明しており、要配慮者全員に交付が必要となるれば経費は増大しま